



第7号 (平成30年11月1日) 担当: 水嶋

高校2年生に送る読書のススメ



早いものでもう11月。2018年も残り2か月となりました。12月には皆さんが楽しみにしている修学旅行があり、年が明ければ2019年、皆さんが高校3年生になる年です。3年生ということは、進学するか就職するか、どの学校・会社を受験するかという、進路選択が待っています。

そして、今月の月訓は「読書」。今回は進路選択を控えた皆さんに、高校2年生が考えるべき読書の仕方について、お伝えしようと思います。

○読書の効能

本を読むことにどんな利点があるのでしょうか。最大の利点は「成熟した日本語の文章や表現を見るができる」ということです。皆さんは日直日誌や作文・感想文など、様々な形で文章を書いています。するとどうでしょう。中には漢字や送り仮名が怪しい文章が、ちらほらと出てきます。文章には一定の書き方があり、適切な「てにをは」や接続語(けれど、または、など)をおさえておかないと、読み手に意図が伝わらなくなります。友人同士のやり取りであれば良いとしても、大学の志望理由書や会社へ送る履歴書など、進路を決めるだけでも文章力が必要な局面が多々あります。今のうちに「誰が読んでも違和感なく読める文章」を書けるよう、その手本となるような本を読むのが、進学・就職試験対策にも有効だと言えるのです。

また、本を読んでいくと様々な表現を知ることができます。文章を書くと「思いました」「感じました」だけを何回も使う人、居ませんか? 同じ語尾や文章の終え方を繰り返し使うと幼い文章に見えます。これら以外にもきれいな文章の手本が、本には数多く載っているのです。

○どんな本をから読み始めるべきか

やはり読書というからには、難しい本や有名な作家の小説を読むべきなのでしょう。いきなり長くて難しい本から読む必要はありません。普段から習慣の無い人にとって、読書は苦痛になります。そんな苦痛が長く続く本を延々と読み続ける、なんてことを最初から始めると三日坊主になる可能性が高くなります。最初は200～400ページ程度で、細かく区切られている物語などから読書を始めてみるのはいかがでしょうか。

○進学を考えている皆さんへ

私は進学を考えている人は、2種類の本を読むべきであると考えています。一つは、自分が志望する分野・専攻の入門書です。とは言っても、いかにも難しそうな本を選ぶ必要はありません。挿絵がある程度あり、数ページで一つの話が終わるような形式のものを選ぶと良いでしょう。私が専攻していた工業分野では「漫画でわかる○○」のようなシリーズがにわか流行していますが、できれば漫画形式ではなく、漫画の部分があっても良いので、まとまった文章がある本が、きれいな文章の例を見る、という観点からおすすめです。

もう一つは、話題になっている本です。これは面接などで「最近読んだ本はなんですか」という質問に対して、答えるためです。書店などで入り口に平積みされていたり、目立つところに陳列されている本から、興味を持てそうな本を選ぶと良いでしょう。大事なのは「どの本を選ぶか」よりその本を読んで「どんなことを感じたか」です。読んだ本の話の要点を人に話せるように整理し、その上で自分の考えをまとめておく。ここまでしておく、面接対策としては最高です。

○おわりに

今回は読書を話題にしました。読書といっても闇雲に本を読んだりする必要はありません。進学や資格取得のための勉強、部活動などで忙しい皆さんにとって、手近なところに目標を設定して、読書をするのが良いかと思います。秋の夜長に読書、いかがですか?

11月行事予定 < 月訓: 読書 >					
1日	木	私学協会表彰式典	16日	金	計算技術検定
3日	土	文化の日 愛産大オープンキャンパス	17日	土	受験対策講座⑬
			19日	月	学年朝礼
4日	木	愛産大オープンキャンパス	22日	木	2学期末試験①
5日	月	修学旅行事前指導	23日	金	勤労感謝の日
10日	土	大学入学共通プレテスト	25日	日	工事担任者試験
11日	日	全商珠算・電卓実務検定	26日	月	2学期末試験② 両替・保険・お土産申し込み
12日	月	後期生徒会役員選挙	27日	火	2学期末試験③
13日	火	常任委員会	28日	水	2学期末試験④
14日	水	執行部合同会 私学弁論大会	29日	木	2学期末試験⑤
			30日	金	短縮(40分×6・7限)

☆今月の一言 『他人の幸せを喜ぶ』

他人の成功に嫉妬したり、憎しみや恨みを持ったりする人は、自分自身を破壊している毒の中にいるようなものです。成功している人がいたら、その人から少しでも学ぶようにしましょう。人の成功を評価する人は、必ず成功します。相手の成功を自分のように喜ぶ。嫉妬なんかしている自分がいたら、すぐに情けないと思ってしまう。人の幸福を自分のことのように喜べたら、生きることが楽しくなりますよ。

(玉 腰)

